

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」神辺校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日		2024年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 1月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・指導員全員で、個々の支援内容や活動プログラムの理解と共有をおこなっている。	・支援の打合せ、振り返りは毎日必ず行い全員で共有検討。 ・指導員2～3名体制で担当し支援を行っている。	・個々の職員の専門性を最大限に活かした支援内容やプログラムを作成し、将来を見据えた取り組みを行っている。
2	・子ども達の本質的な課題を多角的視点から検討共有し、支援に活かしている。	・指導員間でお互いを認め合い、共有しあいながらスキルを高めあっている。	・個々の支援の質をさらに上げるため、療育における知識の獲得や研究に取り組んでいる。個々の知識や経験、習得した内容をアウトプットしていき、全員で共有し学ぶことを継続していく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域や病院、関係機関との連携の不十分さ。	・連携環境の設定の不十分。 ・連携方法や連携後の支援への活かし方の検討。 ・事業所としての意識づけの不十分さ。	・積極的な連携を全員で行い、連携がとりやすい状態をつくる。 ・事業所として、職員への意識づけと、環境の設定を行っていく。
2	・事業所内の行事や研修、訓練等の周知の不十分さ。	・保護者の方や外部に向けての周知の不十分さ。 ・発信方法や開示の不十分さ。 ・事業所としての意識づけの不十分さ。	・「きらり新聞」等で研修や行事等の発信を毎月行っていけるよう環境や体制を整える。 ・事業所として、地域や保護者の方の理解を深めることの重要性を把握し、職員に意識づけをおこない校舎全体で行動する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」神辺校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 2025年 1月 7日

回収数 7

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	1			移行支援については実施されていないのが残念です。発表会への参加方法など連携できたらありがたいです。	積極的に関わっていき、連携の強化を図っていきます。保護者の方とも、どのような方法で取り組むことがいいかな等連携に向けて動いていきます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5			2		
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	2	2	1	もしかしてイベントがそれにあたるのでしょうか？	イベントもその一つではありますが、地域での保育園等と活動する機会をふやしていけるよう検討していきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	2		1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	6	1			支援中の様子や子どもの発達の段階や状態など一緒に振り返る時間があればいいと思います。	保護者の方と支援のねらいや手立てを支援を見ながら具体的に伝える事、指導員より今の状態や発達段階について具体的にお伝えできる環境を整えていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	2			毎回のフィードバック時間では相談できていない事があった。相談したいときは早めに行くのがいいか、でも、早いと子どもがセッションに集中できないのかなと思います。	保護者の方と、面談の方法や時間等詳細を打合せして実施できるよう調整していきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	4	1	1	イベントはあっても他のお母さんと達との交流が少なく寂しいですかね。	イベント後の交流をどのような形で行うか、検討していきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	1			
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6			1	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1		1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	1		3	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7				
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」神辺校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		椅子や机の配置を工夫している。仕切りや配置で集中できるようにしている。	隣の子どもの取り組み内容が気になってしまい集中できないことがあるため、机の配置を職員で考え環境の設定が必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切である。	子どもの状態を考え、職員の配置人数を増やすことが必要な場合がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	建物の入り口に一部スロープを設置した。	玄関・面談室・トイレに段差がある。安全に留意し活動をおこない、事前にシミュレーションを行い環境の設定をおこなっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日、清掃・消毒している。おもちゃ等の消毒も行っている。	入れ替わりの時間等は、机やいすの消毒、使用したおもちゃ等の消毒をする必要があり環境設定が間に合わない場合もある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個々のニーズに合わせ支援ごとに配慮を行っている。	ご利用の人数によっては、その日の状態に合わせて行えない場合もある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎日全員でミーティングを行い、目標の明確化と振り返りを行っている。お休みの職員さんにも、翌日には共有を行っている。	職員一人一人が自ら意識できるよう徹底が必要。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		全員で共有、検討を行い改善にむけて動いている。	職員一人一人が自ら意識して積極的に取り組むように徹底を行っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日のミーティングや個々のミーティングで必ず意見等を聞いている。	積極的に取り組める様働きかけていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価はおこなっていないが、様々な関係機関の方と話す機会を設けている。	支援の開示、校舎の取り組みの言語化を行っていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		研修の提示や提案、促し等を行い、研修に参加できるよう環境の設定をしている。研修に参加した職員は必ず、内容の共有を行い、資質の向上を行っている。	職員自らが研修の周知をすること、年間を通して積極的に参加できる時間の確保。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援の開示を行い、「きらり」に行こう週間等で支援の見学ができるよう取り組みを行っている。	支援プログラムの公表を随時できるよう環境の設定を行っていく事が必要。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		都度、アセスメントをとることを意識するよう全員で共有している。そこから見える本人の課題をみつけ共有し計画を作成している。	本質的な課題を見つけることができるよう職員全員で関わりをもつようにしているが、見極めのためのスキルアップが必要。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		全員で共有、検討を行っている。	本質的な課題を見つけることができるよう職員全員で関わりをもち様々な視点から内容の検討を行えるよう徹底する。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援プログラムの検討を常時おこない、支援計画に沿った内容かどうか確認している。支援後の振り返りで再度検討を行っている。	共有、検討の機会を増やしより支援の質をあげていくようさらなる知識やスキルの獲得が必要。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		標準化されたツールはないが、適応行動を日々確認し検討し共有している。	適応行動の状況を意識することを徹底していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		設定し具体的な内容を提示している。	連携の取り方や方法を全職員で周知徹底を行い、スムーズにしっかりと連携が行えるよう共有する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		行っている。	常時2～3名の職員で関わり、より多角的な視点から検討できるよう工夫を行っていく。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎回、支援内容の確認を行っている。助言を受け固定化しないよう意識している。	他職員の支援内容の共有をし、様々なプログラムの提案を常時行っていく必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	基本的に個別であるが、毎月小集団での療育は ongoing であり、両方からのアセスメントをふまえて計画を立て支援を行っている。	個別と小集団での取り組みをふまえた支援内容が提供できる様検討共有を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		必ず、打ち合わせを行っている。役割や支援の目標、ねらいも明確にしている。	役割によっての関わり方、個別と集団の活動における課題をどう支援に活かしていくかなど、より具体的に検討を行いチームとしての意識を高めている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		当日、もしくは翌日に必ず振り返りを行い、次の支援に繋げている。	より専門性を求めていけるよう、視点、気づきなどの共有をさらに徹底する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		3日以内というルールを設定ししっかりと記録をとることを徹底している。また、支援の振り返りを行い改善等に繋げている。	積極的に職員間で検証・改善ができる体制や環境の設定を徹底して行っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		実施、見直しを行っている。	モニタリングの重要性を職員全員で意識し、本質の見極めを行っていくことを周知徹底する。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		参画している。校舎内での共有の実施をおこない支援に繋げている。	関係機関での取り組み内容を参考にし、支援に繋げていけるよう検討する。機会を増やす。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		整えている。	連携方法や連携内容の精査を実施していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		個々のニーズや必要に応じて行っている。支援の開示、支援内容や支援プログラムの提示をし相互理解に努めている。	併行通園、家族支援、地域連携など、お子様もご家族も地域全体で、より関わりがもてる事を目指す。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		6	現在対象児童がいないため、今後取り組みを行っていく。	通学予定の小学校等との連携をとり、必要な情報の共有を行っていく。日頃からの連携の強化を目指す。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	個々のニーズと必要に応じて行っている。	助言等受ける機会は少ない。スムーズにそういった機会がもてるよう相互に働きかけていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	事業所での支援の取り組みを伝えることを行っている。どなたでも参加できるイベントを開催し、交流できる体制は整えている。	個々のニーズや状態等から交流が難しいお子様もいる。どなたでも参加できる活動の機会の周知を行う。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時にお話を行っている。また、保護者同伴での支援を行い、発達の状況や課題について共通理解を図っている。	本質的な課題の見極め方、保護者の方への伝え方のスキル獲得と、自分たちが行っている支援内容の言語化に取り組む。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		必要に応じて行っている。	情報の提供の方法を検討して保護者の方がわかりやすいように行っていく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		行っている。	契約時に行っているが、都度話をする機会を設けていく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		必要に応じて取り組んでいる。	保護者の方や本人との話をする機会を増やし、意思や意向を確認する機会を増やしていくよう環境を設定する。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		おこなえている。	保護者の方がわかりやすい具体例、伝える事を意識して取り組む。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		おこなえている。	職員の知識の獲得を図り、適切に相談に応じ助言ができるよう質の向上を目指し取組んでいく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4	現在開催はしていない。	今後、保護者のための勉強会やイベントを開催予定。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		対応している。	神辺校として、迅速かつ適切に対応できるよう職員全員周知徹底している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		HPやライン、チラシ等で発信している。	今後、「きらり」の会報誌等発行する予定。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		留意している。 チラシ等の場合は都度保護者に確認をとり許可を得ている。	今後も、保護者の方に内容の提示をしっかりと行い安心して過ごせる場所とすることを意識して関わる。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		配慮している。	状態を把握しながら、コミュニケーションをしっかりとることを意識する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		行っている。	地域の方への取り組みの周知。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		行っている。	周知方法の改善が必要。会報誌等での報告を行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		目的を明確にして意識して訓練を行っている。	訓練の重要性の理解の促しと職員の意識づけ。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		行っている。特に突発的な発作などは、保護者の方に状況の詳細を確認している。	服薬確認等も実施していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	5	必要に応じて行っている。	食べ物を提供する際の確認事項の周知。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		行っている。	常時、全職員への意識づけをおこない、常時意識することの必要性の周知。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		行っている。	周知方法の改善が必要。会報誌等での報告を行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		共有と改善、検討に取り組んでいる。ヒヤリとした支援後すぐに、MTをおこない意識づけしている。	常時、全職員への安全に対する意識づけをおこない、意識することを徹底。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		取り組んでいる。支援の例をあげて、何がだめなのかについて全職員に即時周知と検討を行っている。	実際の支援の中での言葉や態度など具体的な例をあげて意識づけが必要。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		必ず説明を行っている。他校舎の方にも支援を見ていただき検討を行っている。	具体的な例を職員間で共有し検討、周知徹底を継続していく。	